

NPO 法人日本デザイン協会平成 26 年度事業 船橋市立高根中学校職業紹介トーク 報告

実施日 平成 27 年 1 月 30 日

場 所 千葉県船橋市立高根中学校教室

担当者 日本デザイン協会 大倉富美雄

## 中学一年生へいろいろな職業を紹介する

「『自分らしく生きる力を〜』 夢を育てるキャリア教育」という事業を展開している吉田恵子さんの紹介で、東京近郊の千葉県船橋市立高根中学校の 1 年生を対象（希望者）に、20 分という短いトーク・イベントを行うことになり、70 人ほどの生徒に NPO 日本デザイン協会として参加してきました。

短い時間でということは吉田さんも学校のご希望も、いろいろな「職業を出来るだけ簡単に紹介」することにあつたようで、私の他にシェフや美容師、太鼓打ちミュージシャン、幕張水族館の飼育員の方など多彩でした。

成長期にあり精神の形成期にある生徒たちに、1 個人が生きた結果としての職業を紹介して終わるだけというのも、デザインの場合、その多面性から危険のような感じがしました。まして、今はクリエイターの世界（建築・デザイン・アート系）が、拡大し、拡散し二極化しているような現今の状態で、デザイナーや建築家自身が職能の核を束ねかねているような時でもあります。当協会としても理念の多様性があり、一人の会員個人の意見で、デザイナーや建築家のすべてというわけにはいきません。

昨年 5 月に実施した宮城県の市立七ヶ浜中学校の場合では、地図をつくるワークショップを行いました。これほど短い時間では「頭で考え、手を動かして検証する」というデザインらしい作業などの持ち込む余地はありません。

更に、大人として現行制度の問題点、超高齢化少子社会の現実化、後進国の追い上げによる産業構造の激変なども知っていれば、この後に来る子供たちの未来に、勝手な過去経験からの職業を語っていいものだろうか、という気にならざるを得ませんでした。その一方で、本質的な意味で、将来のコンピューター時代の人間性あふれる希望の職業としてのデザイナーの可能性を、教えなければなりません。

そこで、とりあえず個人の仕事をスライドショーで見せてから、その個人が考える、これからの若者に向けての「クリエイターの視点からの社会への眼の開け方」について、出来るだけデザインを広範囲にとらえて参考になりそうな資料をつくり、渡すことにしました。

当日、紹介の先生が立ち会い、真摯な中学生たちが真剣なまなざしで聞いてくれ、よい雰囲気が出来上がりました。

なお、「生徒からの質問項目」という資料も学校側から配られましたが、質問項目を、「将来性のある質問」、「当面しか通用しない質問」、「今ある、必要な資格」の 3 つに大きく分類して簡単に答えました。

当日の中学一年生への職業紹介授業風景

